

Top

トップと語る

63

interview

株式会社水生活製作所



株式会社水生活製作所 代表取締役会長

早川 徹 氏

◎聞き手

十六総合研究所 取締役社長 高橋 義信

Tohru Hayakawa

MIZSEI MFG CO., LTD.

水まわりにより良い価値を提供していくことで、社員はもちろん、お取引先様や製品を使われるユーザー様、地域社会の皆様なども含め、当社に関わるすべての人々に、物心ともにより幸せになってもらいたいという思いです。

水生活製作所は、1954年に水栓バルブ発祥の地、岐阜県山県市美山地区でメッキ工場として創業しました。清流と山々に囲まれた地で、現在は、給水栓、浄水器類、節水器、ガーデニング商材等、水まわりの幅広い商品を手掛けています。

水まわり品の設計、開発、製造、販売という事業領域をもつ当社は、その仕事を遂行すること自体がSDGsの目標にかなうと考え、「ものづくり」と「ひとづくり」の両面から、持続可能な社会を目指して、技術とアイデアで挑戦を続けます。

本日は株式会社水生活製作所の本社をお訪ねし、代表取締役会長 早川 徹様からお話を伺います。

水栓バルブ発祥の地、 山県市においてメッキ事業で創業

— 山県市は、水栓バルブ(蛇口)製品に関連する企業が約100社集積しており「水栓バルブ発祥の地」と言われています。山県市で水栓バルブ製造が始まったきっかけや一大集積地へ発展した経緯を教えてください。

●早川会長(以下、敬称略) 1933年に、^{こきそ} 鋳物業者が多かった名古屋の御器所で事業をしていた、現在の山県市、旧美山町出身の北村静男さんが、故郷に帰ってきて水栓バルブ製造の事業を始めたと聞いています。当時、このあたりには林業や養蚕業しかなかったもので、村をあげての支援だったそうです。その後、高度経済成長期に簡易水道条例などが整備され、水栓への需要が増えたことにより水栓バルブの需要が拡大しました。また水栓バルブの製造は、鋳造、機械加工、研磨、メッキ、組立と多工程なので、資本が必要であり、独立分業が増えて発展してきたと聞いています。

岐阜県は日本の真ん中にあり、全国に商品を送るにも便利だったことや、長良川の支流である清流・^{むぎ} 武儀川があったことも、工場用水の都合上、有利だったのだと思います。

現在でも、岐阜県は日本の水栓金具生産額の約40%を占め日本一です。中でも山県市がナンバーワンであり、大切な地場産業を担っている認識

をもっています。

— 今年創業から69年目に入られました。創業からの沿革をお話しいていただけます。

●早川 1954年1月に祖父が叔父や父らと一緒に、水栓バルブの製造工程の一つ、メッキ事業から創

業しました。屋号は「早川メッキ工業所」。その後、鋳造工程などその他の水栓バルブ製造工程を整え、9年後の1963年12月に法人成りし「早川バルブ製作所」に改称しました。法人としては今年が60期目です。

父の急逝で、私が社長になり5年目の設立50期、2012年に現在の「水生活製作所」に社名を変更しました。変更した理由は、お取引先様や製品を実際に使うユーザー様に、製品を安心して購入していただくためでした。シャワーヘッドや浄水器類なども販売していたのですが、お取引先様から「ユーザーは、‘早川バルブ製作所’という社名から、水まわりの生活用品を製造していることをイメージしづらい」という声がありました。また社員にとって、私の名字である早川を社名から外した方が、自分たちの会社であると、より親しみや責任感を持ってもらえると思いました。

そのころ、中国に販売子会社を設立していたのですが、中国では「水まわりの生活用品」を訳すと「水生活」となる、と中国人社員から聞いていたので、これは良いと思い、かつ当社はメーカーなので「製作所」は残し「水生活製作所」という社名にしました。

大手水栓メーカーとは異なる分野で 水まわりの便利品を追求

— 御社の取扱商品についてお話し願います。

●早川 銅合金の鋳造品、プラスチックの射出成形品を、金型から製造、組立まで手がけていますので、水まわりの金属製品、プラスチック製品は何でも作ります。大手水栓メーカー様は、キッチンや浴室の水栓製造をメインにしていらっしゃいますが、当社が同じように製造しても競争力がないため、それらの自社ブランド製品は製造していません。ただ、大手水栓メーカー様の製品や部品のOEM生産(他社ブランドの商品を製造すること)や工程ごとの加工請負の仕事はさせていただいています。当社の強みを生かせる自社ブランド製品としては、水栓でいえば洗面の水栓や浄水器用の水栓、外構、庭の水栓があ



十六総合研究所 取締役社長 高橋 義信



ストップボタン&ミスト水流付ナノバブルシャワー



水道水と除塩素水の切替レバー付き「バブリーシャワー」



株式会社水生活製作所
代表取締役会長 早川 徹氏

ります。また浄水器やシャワーヘッドなどがあります。浄水器などのろ過材は、当社で設計・開発したものを外注製作していますが、それ以外の部品はすべて自社製作し製品化しています。シャワーヘッドも、金型から射出成形、組立まで、すべて自社で製造をしています。ホームセンター様や家電量販店様で取り扱っていただいている節水シャワーのほか、今流行りのマイクロナノバブルシャワー、また水道水中の残留塩素を取り除くフィルターを内蔵した除塩素シャワーなどを製造、販売しています。除塩素シャワーは、より安心な水で洗顔や洗髪ができるということで、敏感肌の方や美容に熱心な方を中心にご利用いただいています。

マイクロナノバブルを発生させるシャワーヘッドは、シャワーヘッド内で毛穴より小さい泡を発生させることで、その泡が汚れを落としやすく、また泡がはじける際のエネルギーにより、保湿や保温作用などがあるとされているものです。バブルを発生させる方法は特許を取得しています。マイクロナノバブルは、マイナスイオンも帯電しているため、イオン効果により汚れをよく吸着し、高い洗浄効果があるとも言われています。また、水の流量が少なくても、肌への水流のあたり感が強いので、節水にも役立ちます。自社や代理店様のWEBサイト、また海外でもよく売れています。

庭の水栓は、日本だけではなくドイツのデザインアワードを受賞したものもあります。ダイヤル錠付きで、盗水防止のほか集合住宅で利用者を限定したい場合などにも利用されています。今後もお客様から水まわりに関するニーズを伺い、お役に立てる製品を開発していきます。

自社ブランド製品の開発、販売に注力

— 現在、どのようなことに力を入れていらっしゃいますか。

●早川 自社ブランド製品の開発、販売に力を入れています。マーケティング活動など、製造とは違った

面白さのある仕事を社員にしてもらえらるからです。当社は、飲み水をよりきれいにする浄水器や省エネのための節水器具など社会的ニーズが高い分野や、個性的な庭づくり、美容系のシャワーヘッドなど、多様化したニーズに応える製品を開発しています。直近の59期3月末決算で自社ブランド売上比率が55%になりました。また、米国や中国などでの海外売上比率が25%程度あります。

— 今後、自社ブランド売上比率をさらに増やしていく方針でしょうか。

●早川 自社ブランド売上比率が80%くらいあると、計画的な生産ができ、理想的だと考えていますが、現在のOEM生産の仕事量を減らすことなく、それを実現するのが目標です。ただ、私たちが主に関連している住宅業界も、人口減により市場が縮小しています。特に銅合金鋳造の仕事などの減少は顕著になってきています。故郷、山県市の水栓バルブ製造の灯を消さず、技術や仕事を残すためにも、創業時からの取引先であり、大手水栓メーカーの一角であるSANEI株式会社に、当社から話をして、2020年~21年にかけて株式30%を譲渡し、資本・業務提携を結びました。

水栓バルブ委員会により業界全体の発展を目指す

— 早川会長は現在、山県市商工会の水栓バルブ委員会で委員長を務めていらっしゃいますが、委員会での取組みを教えてください。

●早川 山県市には、以前にも情報交換や懇親を行う業界団体はありましたが、国、県や市からの補助金の受け皿にもなれる公式な業界団体として、山県市商工会の中に2018年に委員会が発足しました。現在22社で構成しています。



機能・デザインともに充実した製品が揃う



創業以来培われてきたメッキ技術



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

SBT認証取得

地元業界の喫緊の課題は、「生産性向上」「環境や化学物質の規制への対応」「自社の技術、設備を生かした新規事業の検討」の三つだと考えており、それらに対する勉強会、見学会、意見交換会を行っています。

事業を推進することこそがSDGsにつながる

— 十六銀行で開設した「地方創生SDGsテラス」では、パネル展示へご協力いただきました。また、SBT認証^{注1}も取得されたとお聞きしています。御社のSDGsや環境保全への取り組みをお話し願います。

●早川 当社のSDGsに関しては二本の柱があります。一つは自社ブランド品の拡販です。節水や浄水に関する商品が多いので、それらを積極的に開発、販売して多くの人に使っていただければ、世の中の環境負荷を低減でき、地球環境に優しい暮らしを提供することができるわけです。節水や浄水に関する製品については、販売本数目標等を掲げて取り組んでいます。もう一つは、プラスチック材料を、プラスチック代替品に切り替えていくことにトライしています。今、取り組んでいるのは、半分が石灰で作られている素材です。石灰も掘るときにももちろんエネルギーを使いますが、プラスチックを石油から精製して材料化する場合に比べて半分程度のエネルギー消費で済みます。ただ、従来のプラスチックと比較して耐久性や耐候性^{注2}などの点で劣るため、まずは交換部品などユーザー様が捨てられる部品をこの素材に変えて、エネルギー消費の削減に結びつけたいと思います。

SDGsやカーボンニュートラルに関しては、ユーザー様もCO₂排出量や環境に優しい企業かどうか敏感になってきていると感じており、同じ程度の価格や品質の製品ならば、環境に優しい企業の製品が

選ばれる時代になってきていると思います。当社も取り組まないわけにはいかないと考えていたところ、ちょうど十六銀行さんからSBT認証のことをお伺いして、すぐに認証取得に向けて動きました。私どもの業界でいえば、大手デベロッパー様、住宅・マンションビルダー様、水栓メーカー様がすでにSBT認証を取得し、CO₂削減に目標を掲げて取り組んでおられ、大手企業様は、サプライチェーンも含めたCO₂排出量の把握と削減を求められているので、じきに私たち中小企業にも要請されることが明白です。一歩先んじることで、大手企業様にも安心して取引いただける、あるいはサプライヤーとして選んでいただけるようにと動いています。

また、私は当社の舵取りとともに、現在はSANEIの取締役として、総務・財務・人事部門や物流部門を担当しているのですが、同社にもカーボンニュートラル推進委員会が発足し、委員長に就任しております。サプライヤーには、当社を含め山県市の企業も多いので、地元の皆さんにもご協力いただきながらSANEIにおいてもSBT認証取得に向けて取り組んでまいります。

— 女性目線の製品開発や女性の活躍についてお話し願います。

●早川 水まわり製品は男性より女性の方が触れ



対談風景／株式会社水生活製作所 代表取締役会長 早川 徹氏(右)、十六総合研究所 取締役社長 高橋 義信(左)

注1／ Science Based Targetsの略。「科学的根拠に基づく目標」と訳される。
パリ協定が求める水準(世界の気温上昇を産業革命前より2℃を十分に下回る水準に抑え、また1.5℃に抑える努力をする)と整合した、企業が設定する温室効果ガス排出削減目標のことで、CDP(イギリスの環境非営利団体)、国連グローバルコンパクト、世界資源研究所(WRI)、世界自然保護基金(WWF)による国際的な認定制度。

注2／ プラスチックや塗料等の工業製品が太陽光、温度、湿度、雨等の屋外の自然環境に耐えうる性質であること。



「ぎふ女のすぐれもの」に認定された除塩素入浴剤おぶろシリーズ



ドイツのデザインアワードを受賞したダイヤルロック式「ミズロック横水栓」



本 社・高富工場

る機会が多いこともあります。当社に興味をもって入社してくれる女性も多く、社員の半分以上が女性ですから、女性に活躍してもらわないと会社が立ち行きません。働きやすい職場を作るために、有給休



女性開発者が手がけた二口水栓がグッドデザイン賞受賞!

暇は1時間単位で取れるようにしてあります。育児休業制度はもちろんですが、育休後の短時間正社員制度も設けています。また、今はコロナ禍なので少なくなりましたが、改善提案制度の褒賞金は、個人ではなく部署に支給される制度としてい

るので、貯まったお金で食事会やミニ旅行など部署内コミュニケーションを図ってもらっています。そのほか、ノー残業デーの拡充や、健康経営などの取組みを評価いただき、岐阜県ワークライフ・バランス推進エクセレント企業認定や山県市さくらカンパニー認定を取得しました。実際に女性の活躍の場は広がっていると思います。例えば、製品を使う立場から製品の改善点を考えることや、女性向けに訴求力の高い広告を考え実践することなど、確実に成果が上がってきています。

五つの経営方針をしっかりと実行

— 今後の経営の中で実現したい事や夢、展望などをお聞かせください。

●早川 私の仕事上の夢は、会社の経営目標に置き換えています。例えば、自社ブランド製品をもっと増やしていくことなどです。また人材確保のためにも、さらに働きやすい職場づくり、働きがいのある職場づくりをしていきます。様々な認証や認定を取得していくことで社員に安心感を与えるとともに、長く働いてもらい、仕事や会社に誇りを持ってもらいたいです。

毎朝、私も含めて全社員で、企業理念を唱和しています。「私たちは、水まわりに、より良い価値を提供し、幸せな暮らしと、社会に貢献します」が企業理念です。会社が存在している目的や、社員に当社で働

いてもらう目的が、この企業理念だと考えていますので、毎日、働く目的を口に出して意識してもらっています。そして、水まわりにより良い価値を提供していくことで、社員はもちろん、お取引先様や製品を使われるユーザー様、地域社会の皆様なども含め、当社に関わるすべての人々に、物心ともにより幸せになってもらいたいという思いです。

その企業理念をブレイクダウンした経営方針は五つあり「世の中に存在価値を認められる会社になります」「常に独創的な製品づくりや、技術の探求に取り組みます」は、自社ブランド展開に当てはまる部分です。三つ目の「我が社を取り巻く全ての人に対し“誠実”であることを判断基準とします」は、創業した祖父の頃から掲げている社是を引き継いでいます。私も含めた全社員が、物事を判断する時に、正直に誠実に、損得でなく人としての善悪で考えていこうという判断基準です。四つ目は「環境整備・改善活動に力を尽くし、良い品物、良い人をつくり出す」というものです。環境整備として週3回、朝20分間、皆で清掃活動を行っていますが、単に掃除をし、その場所を美しく保つだけではなく、自分の心も美しく磨くのだと目的を伝えています。やはり社員皆の心が揃わないと、いいものづくりはできません。最後の経営方針は「厳しくも、明るく仲良く働け、社員が誇りを持てる会社にします」です。これら五つの経営方針をしっかりと実行することが、企業理念の目的を果たすことであり、私の信念でもあり、夢を実現するための原動力ですね。

— 本日はありがとうございました。



本社にて

- 【会社概要】 ■ 本 社／岐阜県山県市東深瀬94-2
- 創 業／1954年(昭和29年)1月15日
- 設 立／1963年(昭和38年)12月11日
- 資本金／7800万円 ■ 従業員数／152名(2022年6月)
- 事業内容／給水栓類、配管継手類、浄水器類の設計、開発、製造、販売
・化粧品製造、販売